令和５年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　志村第三中　学校

■児童・生徒の学力の状況

〇全国学力学習状況調査では国語・数学・英語（書くこと）の調査において全国平均より高い正答率を示した。特に国語・英語では都の平均よりも高かった。
〇児童・生徒の学力向上を図るための調査では授業で分かったできたと感じる生徒の割合は高い。一方、家庭学習の時間が都の平均と比べ、２年続けて少ない。
〇これらのことから、現在取り組んでいる授業を基本としながら、家庭学習の機会を確保する必要がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

〇Ｒ５年度のＲＳＴの結果では、学年が上がるにつれて平均的な能力値が上昇する傾向が見られた。これは各学年で生徒の読み解く力が確実に育まれている証であり、現在の指導を継続して行っていく。
〇学びのエリア連携研修において各教科で分析したところ、学びのエリア全体で主語・述語を中心とした係り受け解析に課題があることが分かった。このため、特に係り受け解析に力を入れて指導していく。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

①教師の授業力を高める。
　（１）ＩＣＴ機器等の思考ツールの活用と、「主体的、対話的で深い学び」の推進を図る。
　（２）授業力の向上をテーマとした読み解く力を意識した校内研修会を実施する。
　（３）「板橋区授業スタンダード」を下記の視点１のように行い、全教師が完全実施する。
②放課後の「サイレントスタディ」や放課後学習会を活用し、家庭学習の充実を図るように課題設定を行う。
③授業内に、家庭学習で取り組むべき課題を組み込み、タブレットを活用した家庭学習などを積極的に行う。
④小中一貫教育の推進によって、読み解く力を中心として、学びのエリア内における生徒の学びの連続を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 総合的な学習の時間との連携
〇各教科の授業において、「学習課題・学習目標の確認→講義等（Input）→活動／自力解決→集団解決（Think）→振り返り（Output）」等の学習の流れを定着させる。	〇授業の中で、教科書や資料（文章と図やグラフ、表など）の読み取りを行ったり、省略された主語や目的語などを正しく照応したりする場面を設定する。	〇各教科において学習して身に付けたことを教科横断的に活用し、調査や分析・表現をしていく。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
〇学びのエリア全体で「わかる・できる・楽しい授業」をもとに全教科で「読み解く力」の育成を図る。 〇学びのエリア全体で各教科で「読み解く力」の育成のための指導方法を確認していく。 〇総合的な学習の時間では小中一貫教育として「住み続けられるまちづくりを」を中心に行っていく。 〇キャリア教育も地域を中心に職業インタビュー・地域の企業に貢献・職場体験等、地域を交えて行っていく。	〇総合的な学習の時間において、板橋区と他地区を関連させた調査、区の防災・福祉・環境に貢献できることを考える「郷土愛」に関連する学習を行っていく。その際に、社会科の地理（身近な地域の調査の単元）や理科（火山と地震・気候の単元）との連携を図っていく。 〇また、総合的な学習の時間では探究のプロセスに沿って学んでいくが、国語の発表・数学の統計・美術の作画などの技法を活用し、教科横断的に個人の資質向上を図っていく。	〇フォーム機能のアンケートで速やかな集計・分析をし、授業内容を改善し生徒に還元していく。 〇ICTによるテストやドリル教材など個々の課題に気づかせたり、取り組ませたりする個別最適化をした学びを行う。 〇ファイルの共同編集などの協働的な学習をする。 〇会議用アプリケーションを活用し、不登校生徒や病気療養中の生徒でも協働的に学べる機会を確保していく。